



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和7年4月17日に本校6年生38名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」につきまして、結果がまとまりましたのでご報告いたします。

本調査では、国語科・算数科・理科の3教科の学力テストに加え、家庭での過ごし方や学習時間など、生活習慣に関するアンケートも行われました。これらの結果を通して、子どもたちの学力と生活習慣との関係を把握し、今後の教育活動に活かしてまいります。

総合結果(国語科・算数科・理科)

今回の調査結果では、国語・理科は全国平均をやや下回り、算数は全国平均を下回る結果となりました。課題を踏まえ、子どもたちの力をさらに伸ばせるよう取り組んでまいります。

国語科より

全体として全国平均をやや下回る傾向が見られました。中でも、情報を整理して活用する力や、複数の資料をもとに自分の考えをまとめる力に課題があることが分かりました。たとえば、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つける問題では、正答率が低く、情報の読み取りに苦戦している様子がうかがえます。一方で、資料から適切な言葉を抜き出す問題では高い正答率を示しており、基本的な読解力や語句の把握には力があることが分かります。今後は、複数の情報を関連付けて考える力や、自分の考えについて根拠をもって表現する力を育てるための学習活動を充実させていくことが重要です。

算数科より

全体として全国平均を下回りました。特に「図形」や「測定」の領域での正答率が低く、図形の性質や面積の求め方に課題が見られました。たとえば、台形を選ぶ問題では、図形の特徴を正しく捉える力が十分に育っていないことがうかがえます。一方で、与えられた資料から必要な情報を選び、式を立てて計算する問題では高い正答率を示しており、基本的な計算力や情報の読み取りには一定の力があることが分かります。今後は、図形の性質を活用した問題解決や、複数の情報をもとに考えを組み立てる力を育てる学習活動を充実させていくことが重要です。

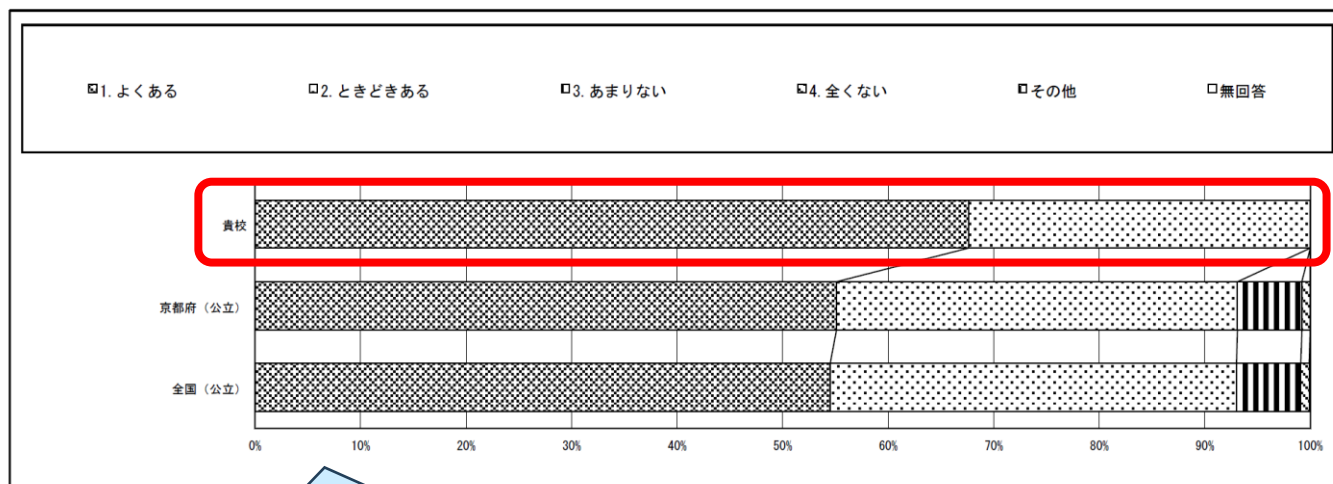
理科より

全体として全国平均をやや下回る傾向が見られました。特に「思考・判断・表現」の観点での正答率が低く、実験結果をもとに考察する力や、根拠をもって説明する力に課題があることが分かります。たとえば、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを結果から説明する問題では、全国平均に比べて大きく差が見られました。一方で、電磁石の強さを高めるためのコイルの巻数に関する問題では、全国平均と同程度の正答率を示しており、基礎的な知識はしっかりと身につけていることが分かります。今後は、観察や実験の結果をもとに自分の考えを言葉で表現する活動を充実させ、科学的な思考力を育てていくことが重要です。



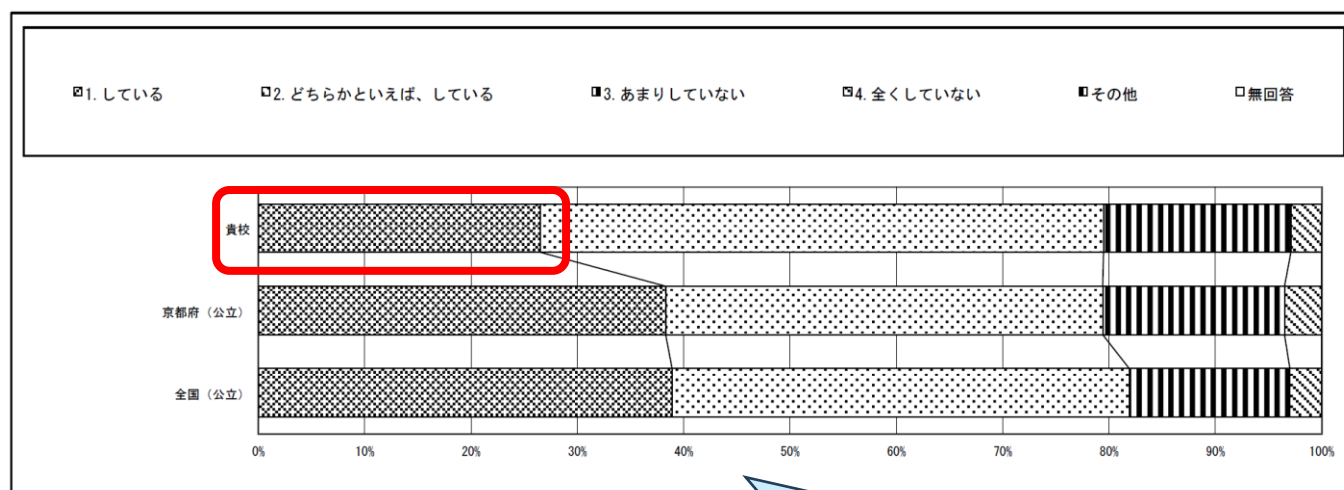
児童質問紙調査から

Q 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



「よくある」「ときどきある」と回答した子が合計で 100% (67.6%+32.4%) に達しており、全国平均 (約 93.0%) を上回っています。これは、日常生活の中で前向きな感情を持てている子が多いことを示しており、心の安定や生活の充実度が高い傾向にあると考えられます。こうした感情は、学習意欲や人間関係にも良い影響を与えるため、今後も大切に育んでいきたい要素です。

Q 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答した子は 26.5% で、全国平均 (38.9%) を大きく下回っています。就寝時刻が不規則なことは、睡眠の質や翌日の集中力、情緒面に影響を及ぼす可能性があります。今後は、規則正しい生活リズムの大切さを伝え、子どもたち自身が意識して整えられるような働きかけが求められます。

【全体を通した本校の成果と課題】

本校では、学校教育目標「学びをくらしに活かす子どもの育成～学び合い、高め合う集団作りを通して～」のもと、日々の教育活動を進めています。保護者や地域の皆様の温かなご支援のもと、教職員が一丸となって、子どもたちの学びを支えています。

昨年度からは「対話する力」に焦点を当て、授業の中での話し合い活動を充実させてきました。今年度はさらにその取組を深め、帯時間の「対話スキルアップ」の時間を活用して、聞く・話す・つなぐといった力を意識的に育てています。子どもたちが互いの考えに耳を傾け、自分の言葉で伝えようとする姿が、日常の学びの中に根付き始めています。

家庭学習についても、これまでの「させられている学習」から「自分で考えて取り組む学習」へと意識の転換を図っています。家庭学習計画表を活用し、自主進度で学習を進める仕組みを整えることで、子どもたちが自分のペースで学びに向かう姿が少しずつ見られるようになってきました。

一方で、質問紙調査からは、生活習慣の面での課題も浮かび上がっています。特に、就寝時刻が不規則なことや、学校外での学習時間が十分に確保できていないことは、学びの土台を揺るがす要因となり得ます。こうした課題に対しては、学校だけでなく、家庭や地域と連携しながら、子どもたちが自分の生活を見直し、よりよい習慣を築いていけるよう支援していく必要があります。

これからも、一人ひとりの実態に寄り添いながら、学びの質を高めるとともに、子どもたちが自ら学びに向かう力を育てていけるよう、学校全体で取り組んでまいります。

【保護者の皆様へ】

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学びの様子を多面的に捉え、これからの教育活動に活かしていくためのものです。結果は学力のすべてを示すものではなく、順位や比較を目的としたものでもありません。

学力は、学校での授業だけでなく、家庭や地域での日々の積み重ねによって育まれていくものです。望ましい生活習慣や、自ら学びに向かう姿勢がその土台となります。今年度の結果からは、ご家庭での温かな関わりや支援の成果が随所に見られました。一方で、生活リズムや家庭学習の習慣に課題が残る子もおり、今後の支援の方向性を考える手がかりとなりました。

子どもたちが自分らしく学びに向かい、健やかに成長していけるよう、学校・家庭・地域が手を取り合いながら、よりよい環境づくりを進めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

